Record

120

SOLD BY
PARKIN
PRINTING &
STATIONERY
CO.
LITTLE ROCK, ARK.

1759½

「マンザナ日記」　福輪廣司

『「羅府出發以来僕の見聞を記して見る
他の人々の眼には異った姿として映ったかも知れぬ？
又此の記を否定するやも知れぬ！
而し僕は唯だ僕の見聞と心に感じた事を信ずるまゝにペンを取る」』

福輪廣司

1.

(一)節

一千九百四十三年 三月二十三日(月曜)
此日こそ私の一生の忘れられない日と
成るで有らう! 羅府よさらば!
雲は低く風は強くとまでは行かずとも
冷たく身にしみて オーバの襟を合せ
て時間の来るのを待った それは太平洋岸
羅府を立退く日
より日系人立退きの先発隊と成った
我々独身者一千名だ 後より来る
同胞の移住の地開拓にマニザナ
に向って立つ日で有った
午前五時 パサデナのローズボールに集った
同胞自動車部隊は 二百臺以上に成った
で有らう
陸軍自動車もトラック、ヂープ(自動車) 合せて
八十臺
東は白み出した 雲は低く体を動
かさぬゆえか寒さは加わる 一寸
午前六時 トラックを先頭に出発開始
の命が下った
同胞自動車十臺の間に一臺のジープ
が入って動きだした
私の自動車は中程に入って居た
一列に成ったにしても先頭と後とでは
走る距離に五哩以上の間を置いて
続いて居たで有らう
二時間十五分間の休みが有っ
た後で 詰を聞くと 陸軍式との事
で有る 其の間に小休等して
還く事に成って居た
正午近くに成ると空は晴れて

2.

上天気と成った而し風だけは冷たい
自動車のトラブルーで列外に離れる
物が出だした
それ等は陸軍のマカニックが直して
来る　直る見込みが無ければ
トラックが引いて来る
午后一時がランチタイムに成った　人家
を離れた路の右側に止めて
居ると兵隊が一人一人に辨当を
やって廻る
中にはサンドイッチ、ミルク、アップル等で
空腹の時とて旨しく食べられた
一通りの食事が済んだ頃兵が
来て一人一人に用水の入用な者
には配って廻った
彼等は皆親切で有る　心では何
と考えて其の態度には我々日本人
の立場に同情をよせて居る様に
私には見えた
我々の立場が立場に有る時
として嬉しく感じた
パサデナを出て四十哩程すぎて
より　ミニザナまで二百六十哩の
間は荒野続きで有った
セイジブラシの中に大石が横たわ
って居る　山は木も無く一面に
地層が表れて居る
人家とては少く　牛の郡を一度
見たのみだった
マニザナの近づく頃　白雪を頂いた
山々が見えだした

3

(二)

大陽は西に入らんとして居る
午后六時マンザナに着いた
町にそびえ立つシエラ連峰は
雪に包まれて美しい絵の様だ
今日の通り来った路順を想ひ
返してはるけきも来つるかなと感に
たえない、
二十軒餘りのバラックの長屋が出来て居
た 人々が両手を上げて迎えて
下れた 大部分日本人で彼等な
二日前に来た醫者、看護婦、コック
等で僕達の入り来る用意を
して居て下れて居たのだ
遠い未知の地に来て同胞に迎え
られた気持 実に嬉しかった
私の自動車もトラブル無く来着い
て安心した キャンプの左側に自動車
がパークして オフィスの前に集った
オフィスと言ふても同じ長屋の一軒
で有る
係りの人の聲がした
皆十人づゝ一室に入れるから
なるだけ知った人と居たければ
其の人達と組を作る様に
私達は羅府より来た者の知人
の子集った
沖園、古賀、八木沼、野田、三好、宮城島、
用君に私 人数が合はない
為に一世の人が二人入る事に
成った
名札を持って順々にオフィスに入っ

て行く番号）を受着けて
室が言渡された B.2－12－3（ブラック ビルディング ルーム）
が我々の住家と決った
先の名札を見せて ブランケット三枚
マトレス一枚を受取って室に行く
二十五呎に四十呎の長屋が四室に
仕切られて居る
私達の室は中の方に成って居た
シングル ベッドが室外に有ったから
持込んで見たが ウィンドガラスの
無い窓より吹込む砂の為に
して気持が悪い何しろ遅くも成
つたから着のまゝで寝る事に
した夜通し寒い同で朝を迎えた
水の設備が良く出来て居ない
為に五百呎も離れて居るメイン水官
まで水を取りに行く寒いはず
だった流した水は氷に成って居る
山から吹下す雪風は身を切る程
に感じられる
室の油ドラムが着いたけど吹通
す窓の風で温まらない
午前八時に朝食の知せが有った
食堂が一つの所に千人の人を
食べさせる為にたまったもので無い
さながら戦場で有る 一時間も
立たされて食堂に入ったところ
食器の音や話声でごったかえして
居る湯の設備が無く 食べ終えた
者の食器を洗ふに湯がストーブ
で不足ずに水で洗って居る

5.

洗ふ者が少い有か？水が十分で
無いゆえか？一度水に掻廻して
投出す食器には先の者の食べた
食物が着いて居る フォークの間
にビーツの皮が入って居る
汚水が流れ落ちて居る 私は
紙を持って居たので拭いた
拭かずに其のまゝ差出す者も居た
皿の上には豆、ポテト、ビーツ、ポリッヂ
が乗った 其れにコーヒーが有った
私等は早い方だったから良かった
後の者は二時間以上待って
貰えなかった者も居ただろう
食堂と言ってテーブル、チヤーも無い
立ったり座ったり 中には歩きつゝ、
食べて居る者も居る 私は柱の
側で立って食べた
此んな不衛生な食事を見たのは
初めてだ 有った政府も良く此んな
事をさせて置くものだ 此様な所
病気が起るとすれば
から起るだろう 恐しい事だ

(三)

設備の出来て居ない所に入って来た
私達だ 最初自分等の住宅を片着
ける事にした
厚紙を持って来て窓に打着けた
ベッドの側に小棚を作って日用品を
置く所を決める
スーツケース等はベッドの下に入れる事

砂山や　像変えたり　風の後
天日も　暗く成りたり　風強し

6

にした　荷が少かったので　それも直ぐ
片着いてしまった
便所の用意が出来て居ないのには
皆困ってしまった
「ビルデング」に一つの便所が置いて
有る　置いて有ると言ふよりか三本の上に
綿して居るだろう　家が置いて有る
一っぱいに成ると　自動車で引いて
何處にか持って行く　大いて三人
其の前で出て来るのを待って居る
何と言ってまとまった事もせずに
た　今　汗だくに成ってしまった
風が出だした　ビュー／＼と音を立て
吹き上げ出した　等に強く　土砂を
吹上げて　外に出られない程に成って
来た、一寸外に出て見たら　眼等に砂
られない、一寸朝出て見たら　眼程砂　紙
め　間より砂打ち着けたり　吹込む窓等の開紙が
バタ／＼と音を立て、砂土が吹込む　縫ぎに
投げかけた　又飛び出して打ち着けて　遂に
た　而し　寺間より吹込む　砂等は
止めようが無い　皆あきらめて
諦めに　夕は　かぶって寝る事
にした　夕も無くば　口も鼻も砂だらけ
に成る　風だろうと想って
朝になる　風は止んで居た　而し室内の
砂を　はき出さねば成らぬ程荒されは
人々は　此んな日が　三日續いた
不平が　厭気がさして来た
其處此處で聞かれた

白雪全山を覆ふ
シエラーの連峰
風砂塵を巻いて
天日暗し
朝に斧をふり
夕に土を運ぶ
誰か知る先発隊の苦
此れ同胞墳墓の地
マンザナの里

[illegible]

三月二十五日

7.

四、

映畫社のニュース班の者達が来て私達の日常を毎日の如く取って居る　それはパサデナを大持かり一緒に来た人達らしかった

老った一世がブランケ持って室に入る所や立って食事する所等取る

でも良い所を取って行く

厭でも軍の許可のもとに厭して居るとすれば私達としては何も出来ない　するにまかせるのみだった

四周よりぼつ〳〵仕事口が開きだした　何にする所か判らないがビルデングの南側ではセイジブラシが刈りを始める　アキスで四五呎に伸びたやつを切って行く　小い体に枯木の積て燒に成って居る　切った株を盛上げて燒いて行く

百人近く働いて居るだろう老いた人達と一緒に八時間働きなので楽なもので有った

毎日〳〵腰が苦しい程の仕事で暮して行く　誰も一生懸命に働く者は居なかった

公然と二十二弗だからと進めて又同胞の為に犠牲に成って下れと言われて来た我々だった　今では新聞等にも陸軍より以上二十一弗止まりだ　弗やない　と発表して居る

金銭等　言って居られない　と言えばそれまでだが人間で有る以上感情によって大部分の人は動く

8

まず食事費と家の諸費用は居ら
なが今度では食器の方も前より
設備でも食物も良く成って来た
来るでも無かったと言ふて居た人達が
今ではミカンが無い、と諦めて居る
ミカンが無イ此れは英字紙にまで集って
て居る日本人の諦めの言葉で通用
するそうな？
デマー デマーは恐しい、其の為に
人心又は社会に及す事は大きい
私達も毎日デマーになやんで居る
回大統領もハウス長官が狙撃され
大統領は重傷して長官は死亡
した等誰からと無く傳り来た
が二日もしたら立消えてしまった
ハワイ島に三万の日本軍が上陸した
サンデゴに空襲が有った其の度に
丁度軍令として英字紙の販賣禁止
が起われた等しき事実の如く私達も
想った程だった
羅府に居る兄夫婦よりの便りに
此府オキミえのデマが飛んで居ると
して有った
強風の為に二十余軒のキャンプ長屋が倒れ
負傷者が出た悪病が起って病死
者が出た等と而し其んな事は
一度も無かったデーマなので有る
而し其れより確実なニュースが入る
までは其れを信じる信じざる
を得ない、それがニュースの如く傳わって
来たからで有る

マンザナや
團扇片手に雪見かな

後に成つて見ると其れも此れもデマーだつた

五.

私達が来てより一週間色々の設備も出来て来た
湯は出ないが洗濯場が出来
共同便所も出来た、食堂も営業が開いて前の如くこまなく成つた
新鮮な野菜(キャベジ・トマト等)を始めて見た珍味を味ふ様に皆喜んで食べた又久しぶりなので特に旨しいとつくづく思つた
テーブル・チャーも出来上つて此頃前の如く並たなくとも良く成つて来た
人間の住家の如く成つて来た
衛生官が付いて居るので又前より食器も美しく成つて来た
来るで無かつた又親族、友に来る人達ものは見合せる様に言つて居た
今では此處に来た時の用意品等知せて居る
話によるとパーカー等のキャンプも此處より悪くとも良くは無いとの話が有る
セアラー、ネバダを眼前に見る雪景色は風さえ吹かねば天下一品と言えた
気候も夜は冷えるが晝は羅府と変らない程で有る
週間に三日は強い風が吹いて居る
二週間居た間に晝有つた此日も風が吹いて居た
初めての家族近くに成つて突然強く吹いて来た

10

四百名近くの人達は女子供が
で有った、男ばかりの世界に天主下り
しく来た様な赤い着物を見る事
は何か賑かな気分をキャンプ全体に
ふりまいた如く見えました
そのはずだ今までは女と言えばオマイスがいル
か看護婦より無かった筈で二十人程
それも白いエプロン姿で何か別世界の
人達と見えて居たからで有る
人々の口の葉に男の無い完説も
には耳をおふ程の猥褻な言葉も聞いた時
した今までに私は今んな話を聞い
た事は無かった家より出なかった私
だったキャンプ生活とはよほど心をひいて
居なければ堕落する・人の親に成る者の
気を着けねばならない事と考えた
此の人達はシヤトルーワシントン州より送ら
れて来た人々で有る
シヤトルとは言え少し先の島に居た
のがターミナル島の如く男は收容所
に取られ残った家族の人達で有る
遠くも全られたものだ設備の十分で
無い所に女小使は可愛相で有る
夕方は羅府より八百名程入って来た
私達は仕事を終えてよりヴァランティア
で荷物はこびを手伝ったが二世の
出て来るのが少いのに驚いた
主に帰米と一世が働く彼等は
室に居てポーカ等遊んで居る
同胞の為に手伝ふと言ふ気に成ら
ないのかしら—！

11

（六）

そう言えば先発隊として来た私達の
内には二世は割に少なかった帰米と一世
が主で有った
世界の戦争が眼の廻る程変って
行きつゝ有る時私達は唯あたえ
られた仕事にしたがふ外は無かった
日米戦の動きさえ私達同胞の
一喜一憂に成るので有った
此んな所に入れられても何か心に明る
さを持って居るのは日本が勝つ、
有るからで有り　もし日本が敗戦
で有ったら私達は心楽しまずで
有らう
自分達の生命を私達は惜しんでは居
ない。銃剣をと成れば捨てても良いと想って
居る　而し私は二世で有る
日本で育ち米国で生れ二国に市民権を持つ
て居る　私は言ふ米国より日本の
方を好きなので有る
それは何構ふすることも出来ない事で有る
それかと言って米国に反感を持っては
居ない、米国の不利に成る事はない
私には出来ない、生命は惜くは無いが
二国共敵に廻せない立場これが
二世の立場で有る
私は今の米国政府の取って居る
我々に対する行動は無理と想
って居ない　市民権は有っても
帰米の私達の心が日本にかたむい
て居るとすれば日本軍がもし西岸
に上陸した時の私達の行動は私自身

にさえ自信を持って無い
行動は心によって動くとすれば死を
決して生命を捨てる其の者は意として
後に残る女子供の立場を想い
やらるるもので有る
同胞を安全にする唯一の道は矢張り
実地を立退くより外有るまい。
そう想って見ると米国の為にも日本人
の為にも実地行が良いと見ねば成らう
ないだろう。
私達は米政府を信じ軍隊を信じる
が行し如何か戦場と成った時の民衆
が興奮した時を知れねば成らない！
私刑を公然と行ふ米国民衆を
知れねば成らない！
私は今腕を隠して去りし四月
を想ひ見るに涙無くしては堪えぬ
同胞の立場に同情せざるを得ない、
五万余人の一世 にキャンプ送りに成り
残った家族に四十八時間内の立退命
が下った多き十九島
民衆の為に危害を加えられた十指に
あまる同胞数々
捨値で売った家財 事業 損害
を受けない人は居なかったで有らう
でも其の人達が短気を起さず
ミカタがナイ　物にこだわら無いのは
心に希望が有るからで有る
自分達の犠牲も喜んで母国に捧げる
心それが有るからで有る
日本人は一個人として見た時の

新天地

四月十三日

一
仰ぐシエラの峯の奥
永遠に聳えたる雪衣
清くも高き姿こそ
此れぞ我等の鏡なれ
マンザナの里の朝ぼらけ
新天地の夜は明けぬ

二
シエラ オロンに天日暗く
吹くや砂塵もものかわと
立ちたる汝や同胞の
意気や天地も驚かん
我が再生のオエンスに
新天地の夜は明けぬ

三、
我は大和の血を受けて
胸に不屈の希望有り
理想の天地の開拓に
打ちふる斧は勇ましく
緑野と変じ実を結ぶ
あゝ一万同胞共栄の
新天地の夜は明けぬ

13

弱さも集團と成れば おきなつて殘り
が有る、日本人の美しさは国家の事に
成って始めて表れて来た、
此の戦争で一番力落したのは米国
育ちの二世で有ったろう、
日本を知らない、彼等は、日本語も良く話せ
ない、彼等は唯米政府を子を親と
して居た時、而し米政府は彼等も
一緒にキャンプに送った。理有は何と
有れ面白く無いそぶりは日に月に
表われて来る。父母の国を見向きも
しなかった者でも今では頼らねば
成らなく成った
中にはヤケを起して居る者を
見ないでも無いが

七
希望に燃え それに全身をさゝげ
る時こそ人間の最も價値ある
時こそ有り 又何職の誰彼
と問わず人は娯楽を留める
娯楽こそ緊張して居る精神を
ゆるめ一時にしろ過去を忘れさ
せるとすれば我々の如き立場に
成った者には必要で有らねば
ならない、
此の時 メリノル（カトリック教会）の教師（ファザー）（LAVERY）
が映画を無料でわざわざ雑
より持ち来て見せて下された
風の冷たい夜に室外では
有ったがキャンプ全住人（千五百）が集

14

つたであろう
私も見た寫真其物より、寫真を
通して私を慰めようとして
下さる牧師達の心を有難く嬉しく
想った 此の一夜によってどれだけ
の同胞が慰められただろうか?
宗教を信じる人の美しさ強さを
私は初めて此の眼で見た
牧師(LAVERS)を私が知ったのは近来
で有る 日本語の上手な人で有る
日本にも行った事が有り帰って
来てより自身で備金までどれだけ
日本人の為に教会を建て
の同胞が教え導かれたか分らない
羅府日本人の為のメリノル教会のメ
は此の人によって作られたのであった
彼こそ種米日本人がこれて[illegible]
な、人の一人で有ろう
私は頼ふ此んな人を此のキャンプ
に住ふ人で此人な立場に有る日本人には
精[illegible]
向人の同情で慰めの入は
どれだけ強くか分らない、
私も日曜日に教会に行って見た
自身で出かけた事は私は初めて
で有った 先に牧師(より)
受けた宗教家に對する正視心が
私を動したのも其の一つだろう其の日
教師はスミス氏で有った
日本に四十年住子居て同志社大学
に教鞭を取って居た人と言ふだけに

15

日本語を上手に話された
武士道や日本精神を引合に出して日本人
の心を掴んで宗教に結びつけて行く
教え方は誰にも出来るものでは無い
此んな人こそ日本人を知って居る人
と言ふて良いだろう
話を聞いて教えらるる所が多かった
人.
外での仕事に出る時は歩哨ライン
を通らねば成らない　キャンプの四方に
歩哨が立って居る
今まで続けて居た　キャンプの南側
のセイジブラシ切りも大分片付いた
ので水源地附近の掃除に出る事
に成った　キャンプの東南に向って私達はトラック
に乗せられて出かけた
セイジブラシや石原を通って行くトラック
が今にも返るかと思ふ程道が悪い
近くに見えて居たが二哩は有ると
の事で有る
美しい水で冷たく氷の如く切れそうだ
雪水と言ふか山にはまだ半程まで
雪が積って居る　大きい流れでは無い
が夏に成ると雪が溶けて増水して
相等の流れに成るとの事で有る
物知りの人が居て色々と語り
出して居た
キャンプより山麓まで八哩以上は有り
一万尺以上の山々で成るそうネバダ

16

の山への間に有数も美しい湖が有って
其等には ツラウト(鱒)が多く居るとの
事で有る
日本人程釣りの好きな人種は少いだろう
羅府より~~[illegible]~~百哩近くの此處まで
ツラウト釣りに来て居たと言ふから 私も
釣りは好きで有る 釣り竿さえ持っ
て来て居る 今では使ふ事も
有りそうに無い
水溜りでの仕事 何もせずゴロ切り
が主地で有った 何處で仕事をして
も何の仕事にても 頭に立ちたがる
人の多いのに驚く 何でも無い事
が頭に成ったつもりで 何か勝手に命を下して
居る それやえ何かで何だか分らなく
成って来る事が有る
此れは日本人の間ばかりで無く キャンプ
を取締って居る白人間にも起って
居るらしい
又軍命令州命令が定まったキャンプ
命令を変えたり 軍州キャンプ
の間が[illegible]一精た[illegible]向く[illegible]
行きつゝ無いのも[illegible]らしい
此んな事には我々は無關心で
通した唯今の我々は動いて居る
と言ふにすぎない
室に居れば退屈なので野の空気
を吸ひに来るにすぎない
運命を忘れて今は唯戦争の
終るを待って居る
戦争の終ってからの不運に付きて

は皆それぞれ心の奥にしまって空襲
して居るらしい。
私が居る人々の、心を聞いて見ると
一世、帰米二世の六割までは南洋晴
行きで三割米日本帰りに成って
居る。後の一割は日本を知らぬ
二世を守る為一割は在米すると成る
日本を知らない二世でも今は日本
に行って見たいと言ふて居る
而し此れも時日と戦争の為に
よって又人の心は変るだろう

九.

此度の戦争にて日本人が受けた
立場の変動こそ言語で表せぬ程
大きかった
私達兄弟の上に起った変動は他
に比れば小さい。而し此れと比べて他
の立場を見て考へれば想って
私の一家の事を書いて見よう
日米戦が起る一週間前、弟は米国
陸軍のメディカル兵として取られて行った
其の時私達兄弟と一人の人とで
二軒の店を持って居た野菜屋で相当
大きくやって居た
トラックも二台有り十七人程使っても居た
商売も順調に行って居たが戦争
が廣がるに於けて日本人奥地移住の
動きは大きく成り
三月十八日陸軍よりメリノル教会に
對して臨時一千名の日本人獨身者を集め

18

る様にと 命令が下って来た
もし出来なければ陸軍警戒令下に於ける
を置き 日本人立退を軍部が何限切つ
て命令を下すと言って来たので
日本人社会の大問題と成り私等に
は夜の十二時より一時間に掛けて三回
まで電話がかかり 義勇先発隊として
立たされたので有る
其の時店を持って居たので私が
出るのは不便な立場に有ったが
同胞の為にと言って私達も何を
言わう 後は兄とパテナの人に頼んで
今別れたので有った
日本人より 立退取る便りによって見るに
兄は一つの店は表價(安値)の四分一
に手離し、後の店は買手が着かず
ビルデングの主人に預けて置いたと
して有った
何しろ日本人は家より五哩以上出られず
夕六時より朝六時まで家に居ら
なければならず
商売所では無く成ってしまったらしい
其の上軍の警戒令が下り 四区事
に立退期限が発表された それぞれの
所に延期限られただした
マンザナ サンタアニタ タイラック セラー
パカダイ サリナス 等々へ
兄達は タイラックに廻されたが 私達
兄弟三人は離れて三所に別れ
別れに成った

19、

10.

四月も半をすぎる　きゃんぷの建物も
大分出来上り　同胞の数も七千名に
上って来た
道、廣場と地ならしも出来　地も堅く
成って来た
山には雪が今だ半程まで残り
週に二、三回は寒い風が吹き続ける
乾燥した土は舞ひ上って　風ごうごう先さへ
見通せぬ時は少く無い　風に大だけは
皆うんざりして居た
陸軍(P.M.)がきゃんぷを見張て居る　命令は一つ
として陸軍より下らぬ様に無い。売店も
出来たが此れも軍の手で行われて
居る
陸軍(P.M.)一聯隊程　きゃんぷの北側に
駐屯して居た　歩哨にきゃんぷ内の諸所
に常々二三十名程入って居たで有ろう
此等の兵と日本人娘との間に風紀
問題が数々と無く持上って人々の
話題に上って行く
何方が悪いか？　私達として又何と
言えよう
結局娘は訓戒されて親か知人にか
にあづけらると成るが　兵の方では相当
厳しく軍法会議に掛られて行った如
く此れは聞いた
此頃より日本人青年等の中にあって
ポリス―(警備員)を夜昼と無く警備させ
る事に成った
治安に夜に成ると彼等は空家
空地を見廻り出した

20.

此れによって日本人間の風紀問題も
大分取しまられだした
捨ばち的に成つた者は見えも外聞
も無く成る
彼等を取締らねば成らぬ ポリス(警察官)
の仕事も楽には無い
そう云ふと我々は心して今の立場を
自覚し静かに平和の来るのを
待たねば成らない、気を大きく
一人の行動が何程他の人々に迷惑を
かけるかを考えねば成らない、

さ.

外の仕事に働いて居た私もジュニアつら
として食堂に入つた四月十日
第九食堂に此の区はサンドルの者
が主と成って居て人々は此の区を
モニタナ族家ゴロゴロ区と呼んで居る
サンピイドル、ターミナル島は戦争開始当時に
一世の全部がモニタナに引かれて行つ
たので今猶男気は二世の子と言つ
て良い程少く女ばかりに成つて居る
其所より此の名が起つたのである
食堂が開く前同アンザナ最初の
結婚式が我々の食堂で起つた
四月十九日
大羅府の二世男女が前々より知合つ
て居た友達同志で有つた
此れから結婚も多く成るだろう
結婚こそ代に為にすべき物と私は
思ふ 相手を見て激励すべきで有る

21

陸ぶの内縁関係は破綻が来易く
不幸に落ちる事が多い、だから有る
年頃の男女の多い、事に驚く
と共に此等の若人の上に幸多
かれと祈りたく成った
親々の地位、地盤が無くて成って果った
人々の人物力量を如何にして
知り見る事が出来るか？
実社会より遠ざかった生活は子を
持つ親の心を想って長られ
数年続くか知らぬ戦争を待
って実社会に若人が空手にて獲上げ
る気概を持つ若人が何人有るか？
間の地位は若人一様に白紙に
仮ったの有る
我々の此の再出発の門出の準備
こそ此の生活の中から作って
遣かねばならない此の生活自己の将来を最
自明に人で此億の生活に決めて
何に、裁判に無らうと私は心に決めて
何つ、有る

22

十二

先発隊として来た我々の中に約二百台
程自動車を持って来た者が居る
其の後の人達に依り持って来る事
又売され無かつた為に入りも居かつた
同年も秋に至って売らされて居た自動車
を今度は売る事も成らぬ事に成った
軍部より自動車所有証(赤紙)を持ち来る様
にとの命令が下って来た
売らうか？売りませうか？と決しかねた
人達がオフィスに様子を聞合せて
見た所、中々猛烈に等しく想え
る所さえ有った
彼等の言分には売りたく無けれ共
売らずとも良い。而し自動車其の物は
当所には置かず、何処にか送り、保存は
其の他色々の経費を差引いた上に外所
に移されたる自動車の保証は引受け
無いとの話で有った
此れならば売るか？捨てるか？
の問題がここに成って仕舞う。軍部から何程

23

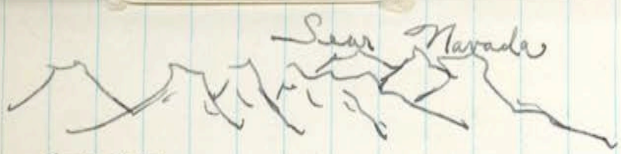
此れは後での話で有るが日本人より
買上げた自動車の價は表價より
少しは落ちるが想像した程悪くは
無かつた 車で女ごくも部分品のみ取り去り
車体は重ねて止にしてしまつた
後で潰して鉄材に使ふとの事で
有つた

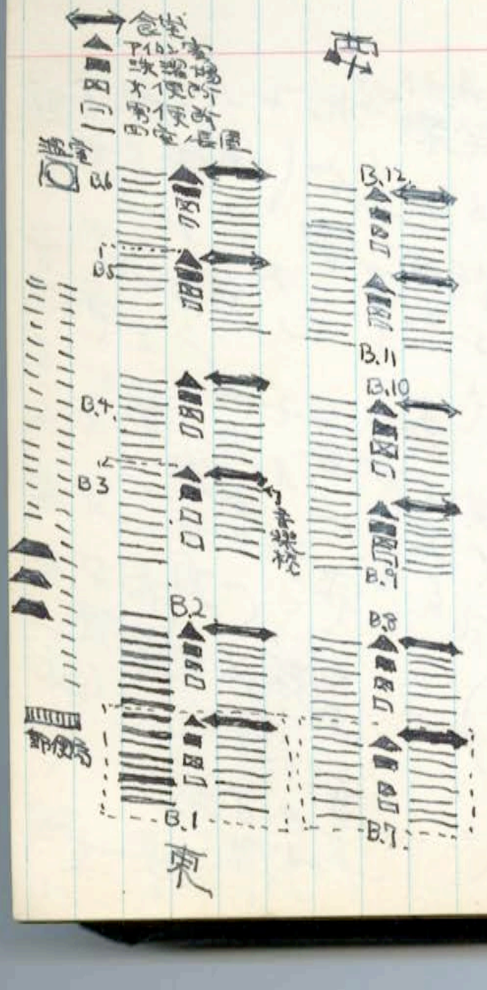
十三.

今日も午に入つて天気は上々で續いて
居る 風も前程吹きもせず 霧さへ少し
づゝ加わつて来たした まだ山には雪が
残つて居る
兄達より此處に手續に来る様に手續
をしたとの知せが有つたので待ち
に待つた其の日に成つて兄達は
来なかつた 一緒に手續きした人で来た人も居る
兄達はタイラックに廻されたので有る
此處が室内のベッドで ブランケ 設備充
て居なかつたので一時廻されたとの事
で有る
タイラック…… オランドとこゝの中央を
少し東よりに有る町で言ふ許らしい
ますがあんな處に廻されようとは
兄達も想わなかつただろうし 私も
想ひ及びもしなかつた
而し タイラックは Assembly Center なので
臨時の收容所 一時其の内 此所に

24

遅れて来るで有らう
兄達と一緒に羅府より一千名近く行つ
たと云ふ事が有る
同じ月此處に入つた人達も皆羅府の
人達で知つた人が大分来て居られる
一万の收容人員が豫定と言はれて居
るのに今九千名近く入つて居るだらう
兄達の来る余地が有るか否かも分ら
ない
キャンプの家も出来上つて大工等も引
上げて行つた
キャンプ建ち方を書いて置いた





十二 B.LK も一区と四区より成り
而し三区の北側に病院が有る

十五

25

五月も未だ成った小供等は我建設に
遊んでも居る、学校は愈だ彼等の為
の[illegible]岸物では始まって居ない、三ヶ月彼等
の一生を引上げてより程の大変動に
合って居て支配する気持までが落ち、着いて
は居ない。学ぶ気もしなくなったが、諸
私、彼の意気がもしれない[illegible]
幼を、彼等に[illegible]のあたえる同様家の事に
人種、彼等の頭に[illegible]正規の学科にして居ない、
可愛[illegible]桐に差別を与える事を知らせる事には
なる様に、又運動させる気等にも学校に
通わせた丈け又運動させる我等を向け服従させの
体をせり上げ者の我等を向け[illegible]気をの
血を[illegible]作り上げねばならない、[illegible]
着けねばならない。気着けて見ると此度の
気着けて見ると大きい彼等の
戦争を衝に動よって燒けず気[illegible]を以けた上大きい彼等の持ったも居る
心の争を[illegible]
中心に[illegible]動よって
希望にはを持ち燒けず気[illegible]を以上
快樂をなし事にて其の持った者も居る
認めし事ず者会有も見る
誰しもの事ず子社会有の
よう[illegible]
心掛けて可し子供を或等持つと親も
て導くなら子供を下度の将来か言え
明るい心を持つ希望は未だ燃えを今少し
子供たたと私な模造[illegible]燃える
親と言わるる志は家の為に

26

国家の為に子供の為に最後
までガンバラねばならぬ
柱だが大黒柱だ、それが動いては
何にも成らない、
よほど、気を引しめてかゝらねば
ならない、

十五、

六月より（　　　　）より
（W.R.A）に此のキャンプの主人が
変った組織は頭二立つ者にて下
までは変行しないだろう
此度のキャンプ所長はローイ、ナッシー
今まで有る
今までの月給も六月より変行さ
れる事に成った
今までは一
弗、十二弗、十六弗と三級に別けら
れて居たのが此度は
十三弗　十六弗　十九弗と成った
其の上、パンツ、靴、の無料配給が
起わるゝとの事で有る
五十時間労働は前と同じく
何んにしても銭々には別に変
りは無い、
唯静かに時の来るのを待つ
より外は無い、

54

55

27 十六

六月に入つてから暑い日が續いて
室内では百五六度に晝は上り夕
方には涼しく成つて夜分の寝るに
には丁度良い程に成る
シエラネバダの峰の雪はまだ消えず
白く残つて居る
かへアイダホの砂糖大根会社の者が
人員募集に来た
ミニドカー ホイニングの仕事
に人員不足を来たし各キャンプより
募集中と云ふ事で有る
條件としては
ミニドカ エカー 九弗五十仙
ホイニング 〃 二弗五十仙
先方では往復の旅費
る事 六週間すれば再び自由に帰れる事
キャンプ生活に退屈した者で四五十名程出て行つた
つた
行く気で居た者も時が時とて
又止めて一週間同日に成つて
有る砂糖大根仕事が人々の仕事で
以前様にも知つて居る者は初めから
大いに話も有つたが者が多かつた
獨身者は町の有ちの二世や三世の
若い青年で有つた
一週間十日すまして帰つて来たが
彼等の想像して居た程では無く

28.

きたのを悔いる手紙が其處此處に
来だした
話で聞いたのとは全く違ひ
大根の時も伸びてやり安い草の
少い所の等み残った人等が済ませて草の
初めて所の人に有ったまで
一升の食料を上にして其人なった働きなので
居ったと言ふ、をやっと働く者さへ
でつ上
来ると仕事が続かず休み勝
仕事に比べて食費がかゝり備かないその割に食はせなかったりする
に今人等に比べて働かず銀その割に日本人
を團集らしく
大一升間めた後彼等が帰って来た時
無早一升食文持が有った者が最高で太郎分
又食費を払えず帰れずに居る
者も居る
キャンプ。居るそうだ仕事に出た時は以後
よ安どつ。注外意にして出る前に時
注意すべきめてからにする様今
其上一つの考へと思ふ株分今めり
團結の一つの其組織を作って
今後への動きを時として取れる
様に集り行って来るだらう
今後へ蒐集か数一度なし
それを想ふと一イタホー行き失望
も又意味では無かった

十七　29

六月も半ばに成った頃働く者に対
して五弗のキュポンが渡された
私達が此処に来てから今まで
かつて無かった最初の政府より貰
る賃銀であった　大きさの紙に一弗
三吋程の上下に期限
と中央に大きく有ったそれを使用
等印札して有った　成あと
貰ったキャンテン[illegible]で現金の代りと交換して
下されもしたが何と無く心細い程の
紙切れもしたが何と無く心細い程の
食券が小さく使った事不自由して居た者か金とは言
身一つの気持に有った事に居たきもつき
何え一つ買うに不自由を感じて居た人達には
えか何の寸分の仕事費けた[illegible]と張言を、人事にあ
え大切な程[illegible]は何と同日では語られず
ここで居て月給も何程と期限
今に居ては[illegible]も少しも言ふ事の者も言はずも分らず
三から[illegible]少し詳しく言ふと者があって無く成った
敵国の政府人が[illegible]無いたると[illegible]きもあつかった
米政府の種々の下たるを取めの下には
下すを何[illegible]なたにと居るの者だからよく
を何しと言ふとも[illegible]って居ても見る
全を受けようと言ふか此の何様な待遇
日本世人の為に居る大和民族を[illegible]なは老いる
元ここも[illegible]ことは言ふ[illegible]を使って決して
恥をもつとも[illegible]る、[illegible]を者は
ともつことも守るだろう

30

私は心に残る程の事が少い
死と言ふ事に就いてさまで深く考へた事が
無い。其の事をつくしく後て
ならう。其の時は其の時と想つて居る
国家社会の為に命を想ふと想つて居る
える事又其の為に命をも捨て
らるる事と想つて居る。
私は幼き時から此様にあれと
有れて来た
此れが現実と成つて表はれ不尚
私の命を入用と成る時が
有らう人事を美しく私は生きたい
其の時こそ美しく生き死に度
をして見たいと想つて居る

十八、
カモフラジ ネットを作る所が三棟
キャンプ内に出来て半円形に成る
兵舎の無い屋根の高い長屋
が有る
に染めて来た網を地に下げて其れに着け
緑の色で有る 緑は緑の
茶色が主で有る
大砲と色に作つて居る カモフラジ
は国際公法に依つて物の上に
が来ないと言ふ事で三世の人は使ふ事
主に成つて働いて居る 若者が

帰米は少い、彼等の如く日本
教育を受けた者に本国の不利
に成る様な物を作る気がしない、
のだろう　私自身としても働く
気は無い、
一日一人、一綱作る事に成って居る
うし、それが守れる者は不前中に
齎せて帰って来る　居るので其に
でも軍部の命令の手を使って居る
月給も55給(十六弗)支払って、又月々
作り高の男、若等に出思
を念じさせる等々
頭領令長は軍部の機嫌取りに一生
懸命に大だまして白人だからもろ人だが
成るにたった一人日本人の人を私は嫌に
一世でも誰か知らない！
日本を知らぬ帰米も有るまい！
私はそう信じたい
そう信じる事によって日本に
対する私の心が落ちつく地が
する
今働いて居る二世の数は五十余人
にて毎日六百枚の網が出来つゝ
有る
それにしても人員不足な事に其の他の
職に働いて居る二世を其の方の
に回しつゝも有る

十九、
七月四日は米国独立祭だ
今までは一年での祭気分で迎えて
居た日で有つた
花火の音で途つた敵国系だつた
而し今日は要之外人と一緒
に見なされて収容所に入れられて
居る我々で有る
市民の権利を主張せんとする
程の二世が何人居る
私自身でさへ米国市民と言ひ
威張るより日本人と擬する自称が
行かより強く大きい
かゝる無理な立場に追ひつめられた我々
の心から今日の心の慰めだろう
その[illegible]今日も何よりの娯楽
しめるのも心に表成つたも何より大きう
がされ[illegible]面上は色々の催し
全キャンプで行はれたの食堂がピクニック
か出来る様に食堂にて静寂が
作られた書会が催されたより
結に渡された
各自好きく物に遊びに出て今
方より催し物見物だつた
何数十から成る野球ティーム数つた
のリグーと成つて居る
各リグーの中より出た上手な
成るオールスターの試合が米国人時
よりスリ有りまりだ
しスリル有りまりが有つてより

33

クインカンテストが有った
各ブラクより選ばれた娘が一陪の
で前に出て[illegible]選ばされて来るので有った
老若人々りは傍子でだまり おだとりすごした
花人の音もだまって聞かずに
猫と立の祭もかくしてすんだ

三十

七月に入ってから 三月、四月、五月分の
月給が支払われた
五月給から九だ三階級した
普通のまゝで体十、八費組に大分はいって居て
居る 我々もだうだ入って
月給も八人我々が日本支払がだ米国内に
も食 るのだで人を収容して居る
キャンプがそれで有るる
キャンプ外の賃金が〇〇 五十仙、以上一弗五十仙
か費用で政府(?)が〇〇って持って居る食ぐ 有らける
とは言へ我々は持外の者以上の
仕事をやって居る(?)
精に食堂やって居るコック 食では言え
さの〜 だけかりに居る全 で 写
なかきもりやでも居る
それで働く人で賃金に対する
不平を表明をたって 言せない
皆同胞の為だと キャンプの為だ
特期の来るまでしのぶう!
此の気持が皆に行渡って居るので

24

静かにして居ると私は見る
今感えて究ても、実軍、政府が公表した
有らゆる事が実行されずに居る
我々先遣隊として来る者に對して
三十二億銀支拂(貸借手数料)なる者又同胞
の為に開拓に立って来たと事に
有った貸銀を眠らして來た者も
居たであろう而し大きいとして家族呼よせ
の出来る持主を主として居た
二十二億貸銀支拂は立消えと成った
家族呼よせは一回きれたのみにて終了
今契って居て何一つ先発隊に對する
持点は本年行されて居ない
私の冗費一家も一同じの十二人が
店の費なく先ず何ば大分に
来れたく成ってしまった
我々をなく立退かせる為の口実だった
と言わたれても止むを得まい
五月までの居ない者も入れた
全住民に働いても三井の十名キネに
も何處に消えて逃々と云った
それに許する追々の噂が起って
て居るキャンプ酸等の使い子等
等と
軍部の下に有るキャンプの
又来事だ軍に責任も有る
又政府の信用を落す事も
大きい

25

三十一

七月も末え寒さは外は知らず
室内が五度内外 人皆して保居る
夜涼しく成るので人心地が保てる
と言えよう
兄達もツールレークのキャンプを引きあげて
ギラ・アリゾナに送られた
此處にはとうとう来なかった
平和の日まで お互に離々で暮す
事に成った
来てから五ヶ月 なれたとは言え
想いだす兄達と一緒に住んだ時を
兄の子ら…今だ気にか可愛かった二人
共に私になついて居た 悪さをする
だろう、大きく成ったたろう、
それも戦後何まで会えなかった事に成った
月に一度何か買って送って居る
何しと言ふても私の気にかかる
のは妹だ
私達兄弟三人渡米した後の家
を守って母と二人淋しく帰りを
待って居る
二十四才に成ってまだ結婚せずに居る
居るだろうと考えて成らない
に待した私の責任で有る 私が妹を不幸
離れては成らない家を飛出して
来た 私は日本の田舎で一生を終るに
なった私は帰国するだろう 夢を追って実
それが私の夢 私達
私は一生夢を追って暮すだろう

26

妹よゆるせ。私は妹を想ふ時に私は一生
人がわびる
力が成ってやる事妹の為に誓って家を
それかと言ふて戦後に
守る気持は全く無い。
私は一生古郷には住まない、人間
が有らう
が成らぬは別だ。一人か二人か度胸
　私は世の中を渡って見たい。
　夢を追ふ男それが僕だ。

三十二、
八月八日　宮キャンプ最初の餅米大会が
開かれた
初めの主旨は餅米者の任務、今後
の團結が有ったが
途中より逸かされ問題を起し
てしまった。
私は残念ながら此の会を見聞
せず人の話を後で聞いたにすぎ
ないが、米人の中にも強行派も有れば
軟派、又共産主義、不同調者と
色々居る
此の会でも初めの間は順調に進
んで居たが途中で後方の者等
かに見えすいた米政府御機嫌取りの
強行派言語をはいた輩に
（親日本主義）の連中が其の本人
攻撃と共に米政府に対する反攻
主義をとなえだした
彼等の言によれば一。

27

我々は一世と同じく敵国系人として
取りあつかわれた者で有る
それ故彼等と同じ立場に立った気持
で彼等と行動を共にして助け合わね
ばならない。
米政府は我々を市民として取あつかつ
ては呉れなかった
市民の名のみを使ふ時は我々を理用する
時にのみで有つた
今に成つて何だ市民だ、もし市民
と家（キャンプ外の家人）が見とめるか
見とめない一歩キャンプ外に一人出て
見れば分かる 其處に待受けて居る
ものは何か 君等はまさか知らぬ
とは言ふまい。
我々は日本人で有る、我々の後には
日本帝国が控えて居る
日本精神を持つて居る
米政府は戦争に使用するかも知らぬ
等其他働く者は居な[illegible]だろう
キャンプ其他の長老者米は[illegible]言論だと成つて大[illegible]
此のキャンプ所長より解散せる[illegible]其の後に政[illegible]
に全住民に改めて世便り[illegible]喜[illegible]受け
ら[illegible]一世も日本人で持つて居る
を教えもせず二世も[illegible]
と秋は見れた者も少くなかつた[illegible]覚
一寸見た所長（ラーイ）初め[illegible]立つ者
の驚きは大きかつたらしい
其夜会議が有り翌日は全区の

28

オフィスに日本語集会禁止の通知が
廣告された
その上、中間區にて十日夜 ロイヤル会長
が自身上まで全住民に對して語る
事務有りと代表された事に時も強く
或る者の若者が所長の事務所にも付けるのだ、
有る者まで同意した者までに付けるのだと言う
又館米部より代表者がキャンプ所長を時
の前に向ってもしナンバー所長が我々
我々もそれに對する同意を取れねば
二居ると告げた為に所長が来
取止めと成った 首脳者達が 館米市民
を煙たがって内心どうし 恐れて
居るのは事実だ
また其の後は日本語の大集会が開かれた
もしないが オフィスの方からも
さまで強行な態度を取らなく
なった 矢先の 藥が利いたの
だろう

29

二十三、

二世の商と言えばおかしいかも知れ
ないが、八月十五
日頃起きたカモフラジ ネッシ 働き人の
ストライキ程アッケ無い物を見たの
は初めてゞ有った
彼等は全部市民権を持つ者に限
られて居る
而して働いて居る者の大部分が二世
だ、帰米は少い、いや少い、と観てた
とそう云ふ気持から、[illegible]に
見えるのかも知れない、
事の起りは彼等を初めて働かせる
時S給（十六弗月給）との約束で有った
其の上あらゆる口実を持って彼等
を此の仕事にふり向けた
所が彼等が受けた物は、一世、帰米
よりの同額とU給（十二弗月給）だった
それで憤立つ者によってS給支給
を主張されてストライキだ
それも一日で切りくずされてしま
った
八時間に伸されU給ですごす
見苦しさ　骨の無さ
僕はストライキを好まない、何し
やりだしたらやり通す元気が
ほしい、
人事ながら胸が悪く成る。

30

三十四、

戦争、世界は戦争に暮して居る
昼と無く夜と無く至る所に
砲火に包まれて居る
第二世界戦争は、全く予想通り
か今では形勢が変り、ドイツ(日独伊)
までの形勢は ドイツ人(日独伊)
此に連合(米国)には十分に居る
(聯合軍)側に年に大勢は分ら
ない、ニュースの予
米国側に有利な戦局に成ると
ニュースには大きく書立て喜しく成ると
重慶戦艦にや航空母艦が人で二日置く
2隻轟沈する等 勝つ程たつ
久しくすると地図の色は日本側が
成って居る等 大に沈んだ[illegible]
米国側がやっつけた大沈めたのだが
軍隊は無く成り、船舶無く成る等
米国内も今では色々の点に
困って居るらしく見える
食料品、日用品の殆んどは甚
しく砂糖、肉、等は統制され
店にオーダーしても買えない、物が
少く成って居る
軍需工場に人が向けられた為
に農場に人質不足を来たし
収穫されずに有る物も多いらしい、

31

アイダホでは農繁期に入つたが
人手不足の為に無職者は浮浪罪
として問はれただし
ゴムを保護する為に自動車の
速度を三十哩に規定され
エキストラタイヤは政府が取り上げて
しまつた。
今から引締めようとしても出来る
かどうか
戦地でも敗けるか其れ以上困難
より持続するか早いと僕は見る
各人種の共同国家たる所に弱点
が有る
自由主義も良いがそれ故個人主義
までも進むと国も終りと思はねばなら
ない
僕の見る所では四十三年が永くて
四十四年には十分聯合軍の敗戦として
終るものと信ずる
日本は良く東洋を治めるだらう
が独逸は一時全欧を治めるとも
永く続くとは思はれない、
もし治めるには一所だ
聯邦合衆国として治めるなら
やり方によつては出来るだらう
文明が平等に進み今まで争つて
来た人種差別共偏の敵害心が深く
如何なる者までも入つて居ると思な
それに比すると日本はやりやすく
出来て居る

32

二十五.

市民として米国軍隊に入って居ても
日系人なれば西部禁止区に有る
収容所（親籍が居ても）は来れない、
加州 アリゾナ アイダホ オレゴン ワシントン
諸州等立入る事は禁ぜられ
て居る
此米国軍籍に身を入れてより九ヶ月
アルカンソに今居る
先日十五日の休暇を貰ったが、僕（?）は
兄の居るアリゾナに入られず
ユタまで来てむなしく軍隊に帰った
市民なるがゆえ軍隊に取り
而し日系人なるがゆえ差別待遇を
する 一寸頭を捻りたく成る
それにも三分の理窟を付ける
のだから話にならない、
今キャンプより全く日本人は軍隊に
取らない、
又軍隊よりも帰しても下れない、
それ程日本人も疑れて居るのか
信用出来ない程
日本軍の強い事を感ずると米
政府としては無理もないだろう

33

二十六

配給自足 此れか我々同胞の為にか感え
ねはならぬ事で有る
米政府も今今でか食料を羅府より
輸送して下れつつ有る
何時迄もしか加州か戦地と化した時
を想わねは成らな 山奥までわざく 送るだろう
か？
我々は ここと言う時の事を用意
して置く事か無駄では有る
まい。
今キャンプの四方に農場か開かれ
て色々な種を蒔けつつ有るのは
喜ばしい事だ
野菜も上出来で毎日各食堂に
廻り一寸の同胞の口に入りつつ
有る
瓜類も上物だ
キャンプの諸方に有るアップルナシ
も合せて四斗箱程有っただろう
何し久しく大醇中入れせず有った
為に大い大物にか成らなかった
明年は良く成るだろう
農場も まだく 廣く するらしい
喜ばしい事だ

34

11.4.

九月の聲を聞いた朝夕の涼風
が急下した
山に雲がかかると同じ雨に成つ
て居る 同じ書も氣も緩んで
キヤンプ宿舎の氣も今では落着い
て来て色々家の周囲に手入を
やりだした
冬がランく 一つや二つ庭が出来
て来た
其の邊の人其が好きく に
同士、苗木、池 を配置して 1本
風流気を見せて居る
何る所より集めるのか珍品の数々
池には鯉は籠に成り 水が流れ
居る。 赤鯉は 外より取寄せたの
らしい
冬 室内もペンキ を塗りだした
今までの板間と異つて床し
にさえ 壹か敷つた
近い内に ペンキ ボールで 内壁 を
するらしい
人間の住む 家らしく 成つ
て来る

三十八
35

同胞一万の住むキャンプ内で一つだけ
にあかしからぬ物が有る
それは良すぎる程設備された病院
で有る
建物は板建だが、ペンキでぬられ
十数棟の間をは廊下で地に下らず
に連絡出来る様に成って居る
二重壁天井 病院内食事も特別なのが
着いて病院内食堂で給される
醫者は日本人
五名の醫者
一 〃 外科専門醫
二 〃 歯科 〃
眼科 〃 〃
が全て揃って居て近代的に外
よりまだ来るらしい
此れで千名以上の入院患者数には
手が廻らない
今までに治療を受けし者
一万七千四百名に上って居る
此の病院が完全に出来上ったので
九月十二日病院落成式が有り
にぎやかしくして有りて
演藝会が有って
アザナよりぬきの名優連が
出て劇十の集りを見た

36

三十九

悲劇とはかゝる事を言ふか、
起り得し夫妻の[illegible]有るの仲殺す事こそ最大だけで
[illegible]の愛情[illegible]は[illegible]の民こそ九太ろう
唯十五分信じ[illegible]な[illegible]此も知らせしに九間せつして
ゞ合ふ[illegible]私[illegible]その心たの前日[illegible]は
[illegible]永も[illegible]も私も其の一緒[illegible]食堂
ゞ[illegible]し事は語すら共達した[illegible]の仲に[illegible]
[illegible]に[illegible]め、[illegible]にも[illegible]も働き好日の[illegible]で居る
夫人は[illegible]三十五居らかにたも[illegible]一緒
内[illegible]に[illegible]三十[illegible]に[illegible]食住[illegible]人で[illegible]ゞ居らかた
[illegible]仕[illegible]に[illegible]の子供二人とも[illegible]しい九成り居る
り[illegible]殺[illegible]し乃[illegible]三世[illegible]の[illegible]も言[illegible]九
を[illegible]は[illegible]再[illegible]夫[illegible]は[illegible]人を[illegible]殺しまた再も[illegible]
ゞ九殺[illegible]に[illegible]の致人[illegible]を殺[illegible]又[illegible]
[illegible]有[illegible]体に[illegible]の[illegible]書に書かれ[illegible]
[illegible]つたも永い年[illegible]戚え[illegible]ぬいたか
[illegible]体も[illegible]うく行[illegible]せし妻[illegible]を言[illegible]
しすて[illegible]大[illegible]動に生[illegible]大と
朝[illegible]此有[illegible]を[illegible]りし時[illegible]二人の
子供[illegible]なれ[illegible]心[illegible]に[illegible]て居[illegible]大との
[illegible]ゞ[illegible]有[illegible]る
[illegible]書は[illegible]書かれて有り

37

已が行かなければならなかった大
理石
又各小使の仕事を軽くかで有った
集團の生活を日本人が一ヶ所に
共同生活を共行人つて居る現在
悲劇らはめ様に氣を揉合って犠牲を成さしめ、

三十

軍部に服せる二世と言えど親
も無く兄弟等が尋ねて西部
沿岸禁止区には立入る事は
禁ぜられて居た
禁止区内に有る日本人收容所
にも立入る事は出来無か
つたが十二月に入つてから
禁止されて自由に出入出来
る様に成つた。二世が軍務に服せ
主として南部で居るアルカンソを
中心として

36

三十一.

十月に入って以来寒く成ったゆえ
戸外のスポーツも少く成り
各クラスで演藝会に力を
そゝぐ、毎週[illegible]したのであるが演藝
会が[illegible]と有るだる[illegible]上手も
[illegible]の住民の中だ上手も
居る、[illegible]上手か[illegible]住民
に大き[illegible]安上手をあたえて住
[illegible]るも友達と共に学校の無い
[illegible]も[illegible]出来る
やっぱり日本が恋しい しんみり
して僕等には物淋し、

39

III十一

ミニザナ キャンプの食堂主任で有り
食料配給所長で有り ウイチエスター附
彼の人気先の副所長だつた十二附と共に住民
の食料反感を入れ麦粉の上前砂糖をはねて居る、何
着るとて一寸 麦粉の量 砂糖配給に
不明にてさせて相しまつた 行え
今回食堂代表者との間に交渉を
つ、今回食堂が働き者まとまるまで ごうの働き
に入つ成つて 五人家 分けより斗く
調理隊にては 其持に 十二で は
軍隊としても 其の仕事の 投宿
居られる 自由に 其の仕事の 実行
が出来る 実行すると すれば 誰か食堂
に働く人
今 四十五名の 働く人 が 一食堂に
居て ついて 太めの 住人 な 平均 三十四名
まして 仕事の中で 食堂 に 働く
人達 が 一番 時間も 永く それ 仕事
以上 する
此の案は食堂側の反対で 実行
されなかつた

②

三十二

カペツルを各住民の室々にした
のが十九日だった
皆二世の若者の手で成された
十月に入ってから初冬の空の
大陸か天上りだが冬だった
大工達が三四十人で廻って居ては
来春までかかるとの事で各づつ
共にづつ住民が總出でやりだした
カンナボルトで成る。
白土を紙で張った様な物で
白くなり上げた後は明るく
人の住まい様な室に成った
二重壁に成ったわけで寒に晴
にも寒気を遮ぎり寒さに
此れ又防ぎに成って来る
ストーブを各々に寒い時でも
寒さは燃しさえ居れば
知らずに暮せるわけ
今月有る
入ってから衣服も貰った
ネービーオーバー・シャツ・パンツ・サック下着等々
等。
同回寒さに向ふので其の用意
が成されて有る。

4

三十日

新区長制度問題で今セミナに
は論が大きく成りつゝ有る
今までの区長は区のおさえと
して務(?)りの無い年の人を立て、居た
だって一世で有った
行し今度は市民権を有する者
に限ると成った
キャミス(?)住民の勢力を一世より
二世に移し勢がそれをカムフラン(?)
しないとして居ると一部の一世
はいきまいて居る
むしろ陣(?)(当局)としては年若き
二世の方が使い良いだろう
何し[illegible]変が有る餘り
一世の方が鮮木(?)をおさえる様と
すれば其の反動が来る
もし人が立って入るを抑れば
一寸の間隔時静観ですます
だろうか？

如

三十五
轉住者總人口
十万を超ゆ

十月に成って西部沿岸より
日本人の移住が決定した
今各センターの住民人数は

パカー	アリゾナ	一七、〇九二 加
ツール湖	加州	一四、四四五
ヒラ河畔	アリゾナ	一三、三三七
ハート山		九、八〇八
マンザナ	加州	九、〇九九
ロウアー		八、二四八
セントラル・ユタ		七、六九四
ジエロメ		七、六六〇
ミニドカ		七、五八〇
グラナダ		六、[illegible]五〇

(63)

三十六

憂国血士団の名のもとに十二月三日に自治政組織委員十七名に天誅を加えるとの脅喝状が各食堂近くにはられて有った
剛粋主義的文だ
又十二月二十五日にも三度目のはり紙が[illegible]されて有った
[illegible]筆跡は全く先の物と同一人の手で[illegible]されて有った
文面は

一、日本人ならば死しても米政府のカモフラジネットに働くな、

一、外部に出て働く事は米国産業を助けるものにして日本兵の血が注いて居るぞ

一、キャンプ自治会は平和の時の日米交渉の時は使う名目に利用せんとする物で見とめる[illegible]

一、何一つでも米国に有利に成る事なく手を引け[illegible]本に[illegible]る心の者なし

[illegible] 有志

44

三七

十一月の二十七日夜 キャンプ キャンティンに
着火を心見た者が居た
キャンに油を入れ 地をふたくして火
を着けて床下に入れて置いたが
大事にならぬ前に見付けて無事
にすました
僕は何様に考えても其の本人が
何の動機目的でかゝる事を成
したか不可解で有る
キャンティンは同胞産業共合の物が有る
米政府の物でも軍部の物も入って
居ない
ましてや住民の居るバラック續が有る
風の吹き様ではバラックに犠牲がする
私怨ではなかったか 働く人に對する
共同組合に不服を有する者か？
バラックより他に移すを目的でか？
何にしてもバラックでは今後を憂ひて
他へ移轉運動を起し
キャンティンでも 三日間閉店して
成行を見て 移先が出来次第
引越に決した

三八、

十二月六日　マンザナ住民と陸軍の對行

マンザナ最初で有り全米日本人收容所最大の事件として二名の死者十名の負傷者を出しレデオ一新聞にて全米に宣傳へられた事について全米字紙にて及びレデオに發表した事件の眞相が事實と相違して居るので其原因より其の成行を此處に記す

フレッド・タヤマ氏に十二月五日の午后九時頃十五名の覆面せし者が入って袋叩した事に十余名の其人を嫌疑者として引かれたが其人一人の上野（ハリー上野）と言う者キャンプの [illegible] 此の事件は今まで [illegible] 事は又住民の意志を代表して堂々の何に [illegible] 住民に強く [illegible] て居た人で住民の信用を得て居た程又當局よりネラマ [illegible] 人だった。

大から此の事件を口實として彼を [illegible] すの為の企画の [illegible] と共に住民に [illegible] た。

一方袋叩に合った田中氏は其の内の [illegible] は話として表面に出しては二世の名を代表して米國に忠誠をつくす事を何につけ發表して居たが有る同じ個人として對談した其時の口

より語らるる言葉たな純日本的彩
言ひ交へる。彼の言葉をかりれば
かかる立場に成つた以上日本人は
あくまで日本人で有る。彼が聲を大
にして日本人も兵として取つて下れと言つても
軍事工場に働かせて下れもしない
米政府として米国民は取上げて下れない
此れは唯だ家の我々日本人に對する
気持の緩和策で有る。自分は日本人
より非難されるだろう。だが少しでも
より良き生活が日本人にあたえられ
るとしたら自分は喜んで此の体を
なげ出す」
彼の心の奥に真実にかかる美しい
気持より身をなげ出しての行動
なら彼な英雄として彼を含めて許する
而し全住民は知ると知らずと
彼は日本人で無い、スパイ犬だと
非難されて来た
かかる立場の日系の者たちた
事か住民として痛快と喜んだな
しても同情する者は少なかった
それにかえ自分等の意志の代表者
たる上野氏が引かるるは別として
キャンプ外に一人住める事に對して
不満と成り　十二月六日夜
全住民に呼かけ大の会有る
今までにも事務所の職に立つ人達
の不正事件は数限り無く有る
すあこて金の不拂。物資配給のうわさ等
等々　此の上野氏の殺害と

47

共に今までの事を議決して貰ふ事
に要見合一致して代表者五名
民衆京・山口・岸・橋本等の人達が
談家の支援にかつて有る警察郡に
談判に行ったので有る 三時郡保三千
を越した陸軍で行つた有る余 銃剣 ミニガン
時を出して余対も余して上野氏好医して
一同の住民談行した上野氏
終り住民も引上げた
午后六時一回目の住民集合と成り
上野氏放免を直ぐ実行して貰ふ事
をようきうする事に決した
又我々住民に不利な決人々日本人共
に此の追放する事も決議した人々が集り
米政権集合せ四千以上の決議のF.B.Iの実
たる日本人に宣告を発表して成り
代表者達の一派は宣告を発表して成り
果力手数を（三千人）を交渉中は静かに
約手数をなし引いて事を警察に談判
に行った
後の行った年数な病院に居る今田氏
が向けな、積に行動に（犬、スパイ）の住宅
又一郎が自由に支行、今回されたの住宅
襲撃した此行動に大に参染をかくして
全住民にすぎた
な険悪の気は立って其の雲行
危険な一路に向って居た
空砲七時郡集に包まれた警察より
三発上げて陸軍と交代した

58

此度も五六十名の銃剣、キカン銃、にて
警戒の任に着いた
御互に殺気だつて居た。武器を
殺人犯の兵、郡へ集め居る住民を
交渉中から静かにすれば良いと居る
要人を言ふて居る、有るも居る
何事か起らねば良いがと傍は案
じだした
交渉は永引いた 午后九時半 話も
まとまりつゝ有る時
外では兵が群集に歓声を
せまりだしたので、民衆も
と言ふ ブルネイ バンザイ 日本帝国撲滅
とさけんで気勢を上げた
兵は暴動と感じたと共に サミ弾
を放って民衆が散る背後から
ミミニガンを振廻した
ゆえに首謀者背後より弾を打込まれて
一人即死 一人は十日正午死した
代表者は皆引かれ 会談は流れて
しまった
十日午前八時に又二回目の集会
を致し 第二委員が選ばれて
軍隊との交渉に向った
もし彼等が解らずば第三、第四、
最後の一人まで解結の任に当た
らん
もし我々の手に出来ればスペイン
公使を通して解結させる
其の趣旨食品関係の人達と
の話し、全部ストライキに入るに決た

49.

而しスペイン公使への通信は全く出来
なく成った。外部との通信は禁ぜ
られキャンプと外部とは陸軍によって
孤立させた形に成った
キャンプ内の集合の禁止　兵隊は
銃剣つけてキャンプ内に入って居る
無気味な静けさか音も人の目も
沈黙った。学校も何も閉かない、死の
新聞か続く
新聞もレディオでも　プーロパハ
記念日として　米国主義
の二世記念襲撃に就ましたのを陸軍か
出めんとし四を見たと発表して
居る　又上野は二の監禁は彼も
狙われて居たと宣言に保護か目的で
有ると発表して居る
キャンプ内住民より狙らわれて
居た大物等は家族と共に兵隊に
よってキャンプ外に移って行った
十月も対立のままで会る
第一交渉委員はまだ帰らず
第二交渉委員と当局との交渉
当局としては常の如く皆仕事に
着いてから交渉しようと言ひ
その為に委員達は引下って先ず
下るまでストライキを続けると決した
周囲立っても其のまま続ける強硬派と
見られて居た一世帰米四十人から
引かれて行った
文人古賀一男君も引かれた　而し彼
は人間だったと言って八日目に

50

歸されて来た
十一月十七日にスペイン領事が来て件
に入って両者間の交渉を進める
事に成った
領事の話を入れて住民は前の
如く仕事に入ったが
でも交渉次第では何様に落着し
か分らない
十二月二十日には事件の犠牲者
の葬儀が全住民代表及び當局
よりの代表者及びブラジル人より
数百名が集ったたろう 上等の一臺
の花輪も美しく午后一時に全住民
の五分間の默禱内におこなわれた
又一週間全住民は黒い切地を着けて
喪にふくした

元旦

三十九

十九百四十三年も明けた こゝナで新年
を迎えようとは夢にも思わなかった
天気も朝夕は寒いが晴やかな
日中は冬とは思えない程
キャンプ内とは言え日本人の集り
だけに何處となく正月気分が
満ちて居る
年始回りも知人の間に取り
かわされて御互に本年の希望
等好き〜の熱を上げて居る
食堂では ソオニ モチ スシ
等日本料理でもてなした

5

四十

キャンプ住民の最大の關心事は戰局の動きだ
ニユースペーパを愛し、人によつて毎朝
キャンティンは人の群が出来て居る
聯合國の宣伝の事りの新聞に
無いと分つて居ながら新聞を愛し
人々は字面の裏の裏を想像して
戰局を知らんとする
日本の立場の悪し悪しに付け
住民の顔色は變る
キャンプ内に短波ラヂオを持つ者が有る
禁止品で有るが誰も密告する者も
無し、無事に日本ニユースを聞いて
我々の耳にまで入つて来る
日本政府が人々に聞くのみ、体のに
戰況か熱つして云つて来る。命も名も
國も知らない、故に氣持に成る
今僕はなぜ日本より来たかを考へる、
日本に居る同級生の如く日本國の為
に命を戰場になげだした友人等が
うらやましく成つてならない
僕は死場を探しくてならない、國の為の一！
キャンプ内では全く解けなし、動け無い
これは全住民に依る騒擾して
行くからだ
そしてもし●すこしなるにしても、それ
だけの價値有る物とては無い
今は唯日本は勝つて下れ、此れは
在米十三万同胞の祈りだ
其の為ならば我ら十三万同胞は喜んで
死ぬだろう。

52

四十

ミニーメキシコより帰りし同胞の話

F.B.I.に検挙されし同胞十六名〇〇收
容所に有る時、或日日本の捕虜兵が
此キャンプに来ると聞き皆でフェンスに
すがって来るのを今か〳〵と待った
やがて六十余名がMPに銃剣で
かこまれながら見るだに気毒そう
な姿でやって来た
すると十六名の同胞の一人が大声
を叫ぶと忽ち十六名の者の声と変り
天地もさけんばかりの萬歳で同胞の声となって行った
此の叫を上げて聞かない、大部は日本同胞の捕虜
顔を上げて同胞かも度、見人は手又顔を
ふして涙ぐんで、私今達は同胞数も無は極まって泣いた
三十才紅顔の若者数名は十八九才
の可愛い顔に空の同胞だなり残るは
まで叫んだものゝ一同激度胸に迫り
実際何人などさめて上げて良いか
今から成ってしまった上
後で聞けば英の中にすゝ、真珠湾
攻撃、ギルバード、マレー、ダッチハーバーを
え最後にミッドウェー海戦にて空母艦
飛龍を失って捕れの身と成った
者も有り
此れより実記する文は其の兵の
語りし実話を又聞きし
記しし物で有る

続き
十二月〇日 横須賀を出て東方に進む事
〇日 たしか停艦 艦長全員を集合を
求めて初めて目的使命を語る
明日七日午前三時真珠湾に向って
真珠湾攻撃する を離れる事〇〇哩 命令が下
って後ゆっくり休めと言われても元気
め張り切った若者等は愛機の
手入が済めと休まず
丁度夜の見張りに甲板に出て居た
當直将校（今井少尉）大尉は兵等が
其處此處に三人組を作りつつ愛機
を「なで」、生物にもの言う如く
「どうか明日は共に行くのだ無事に
目的を達する事が出来る様に
まで」と語るを聞き其の姿を見ては
大尉をしていたく泣かしめたと
愈々時が来れば全員暗い甲板に
起床し先ずプロペラが廻り発す
艦長初め全員の万歳に送られて
ハワイの空に向って行く、
九時攻撃終りて母艦に帰れば艦長
初め大喜び 然れど待てど
帰らぬ三機を艦長は御飯も食べず
にハワイの空を仰ぎて待つ事
午後の花と散しかれども帰らず
国を切りつつ艦長大で有ろうと望子
母に向って上げ初めた一同合掌して
斯くして戦友を失って幾ヶ月の後

続き

ミッドウェイ海戦に関して 米機の自爆は
機関部にあたり 速力停止し 艦下に
居し 六十余名は [illegible]を閉止され コールダル
を沈して 艦側を うかがう事 [illegible]時間 [illegible]外部
に出て [illegible] 味方は激戦七時間 後とも見えず
十数機の物凄き [illegible] 唯の 奇艦一つ 見えず 投
さの中 [illegible] 無し ボートを下し 六十余名
だ 集中に 人に [illegible] 食料の 敵 潜水艦 [illegible]
母艦に [illegible] 飛行艇 [illegible] 浪 人 [illegible] 十 [illegible]
舎 [illegible] 飲料は 残 [illegible] 海上 を 流 する
の も [illegible] 天 に まかせて 一日 二日 と
立って 行く 一人 又 一人 海中 に 自殺 を
企て 十三日 まで [illegible] 数え 日 後 は 知らず
意識 に せん 帰った 時 に 身 は 米国
洋艦 に 居る 事 だった
其の 時 共 に 救容 され 二十六名
国家 に 対し 申し訳無し と 散った 戦友
に 対して 前 に 何 度 は [illegible] 自殺 を
企て は 見た が 戦友 に 止められ 彼等 と
共 に 死 は 安い 此 の 戦 に 日本 の 勝つ の
を 見て 共 に 死なう
と 言 わ れて 同 人 ら 命 を 保 って
居 た の だ が 悲 感 で 同 胞 に
此 の 人 々 が 故 に 成 った の を 見 られ よう と
腹 が た ち 投 され る ま た し て
と ら ず 異 な と 綴 を そ う さ せ る
姓 名 を 聞 け ど 恥 じ て 語 らず
なんと なく 気 [illegible] 分 らない

続き

朝は晴い時に起き体操し明るく成る
と室にとじ込んでおらずに
ふけって居る同胞も書物は許され
ては居ない話相手と成り或は慰めて居た
十月は三日明治節には彼等は二枚の
シャツを合せ旗を切りて血を出し
大きな日の丸の旗を作りて米兵機関銃持
高く上げて祝えと言ふは
ち来りて下せと言ふ
彼等六十余名上着をぬきて裸と
成り旗を中心に列りを並んで下さ
ず米兵もてあませしと見えうつと
言えばうつてと言ふて胸を大くし
死場所をもとめて居る彼等も
角する事が在米同胞一同に要
い立場に置かせるから御互の
為に下して下れと米将校に頼まれ
そうして下に下せしと
断して彼等と暮す事二週間
いよく出て行く日彼等を迎え
た同しアーンにすがりて彼等を
「送る 誰からとも無く唱ふ出した
御国の光」
全て同胞の合唱と成り
全うるる人涙を流して泣
きだす
何時と知れず引かれて行く彼等
妻子に夫と云て見る日本の両親
私も子の悲しみを共に泣かぬ者が有ろうか
彼等は此の話を今は何が聞いて泣いた
彼等は今は何処に戦勝を見て散らし人と
する彼等は二度と日本を見まい あゝ日本人

四十二.

十二月二十日 夜マニラ放送内にて或る
同胞が聴取せる日本短波放送を速記
して それを書取文に直した形を復写せ
し形)

爆弾と共に挺身敵の砲台を打破り
両眼と両手を失ひ 東條首相より個人
感状を受け偉勲上聞に達し殊勲甲
に叙せられし福岡県築城郡出身 陸軍
上等兵 神林英明君だ

第五回傷痍軍人慰労大会
主催 大日本愛国婦人大阪支部
後援 大阪朝日新聞 大阪毎日新聞
東京朝日新聞 東京日日新聞
司会者大阪朝日新聞主筆 鈴木文史郎
東京日日社長 徳富蘇峰
来賓各皇族及び
東條首相
末次信正大将
山本五十六大将代理
頭山満老
において話せしもの也

私が只今御照会に預りました神林
上等兵で有ります
大衆の前に立つてお許申上げる事
は初めてであります あの時の勇壮